

第 45 回アフリカ開発銀行・第 36 回アフリカ開発基金年次総会 総務演説

(平成 22 年 (2010 年) 5 月 27, 28 日 (金) 於：象牙海岸 アビジャン)

1. 序

議長、総裁、各国総務各位、並びにご列席の皆様、

第 45 回アフリカ開発銀行 (AfDB)、第 36 回アフリカ開発基金 (AfDF) 年次総会の開催にあたり、主催国である象牙海岸政府及びアビジャン市民の皆様の暖かい歓迎に対し、心から感謝いたします。日本政府を代表して、御挨拶を申し上げることを光栄に思います。

象牙海岸は、日本と時を同じく 1960 年代～70 年代にかけて高度成長を経験し、当時、象牙海岸は「アフリカの日本」と呼ばれたこともあったと承知しており、我が国として西アフリカにおいて格別の親近感を覚える国の一つであります。また、AfDB グループ本部庁舎の玄関には、庁舎竣工を祝して送られた日本の西陣織が、今もなお飾られており、大変嬉しく思います。我が国は、AfDB グループのアビジャンへの帰還が可能となるよう、一日も早く環境が整うことを望んでおります。

我が国は、2005 年 9 月の就任以来、卓越したリーダーシップにより AfDB グループを率い、今般の世界的な経済・金融危機への対処をはじめとする困難な課題に対して大きな成果を上げて来られたドナルド・カベルカ総裁に対し、深い敬意を表します。我が国は、カベルカ総裁を強く支持すると共に、総裁として再選を果たされたことを心から歓迎いたします。

2. アフリカの成長

今年、我々は、アフリカの 17 カ国が独立を果たした 1960 年「アフリカの年」から 50 周年を迎えます。独立後のアフリカの国々は、1970 年代の 2 度のオイルショックによる深刻な世界的不況、1980 年代の構造調整の時代、そして今世紀初頭までにおよぶ累積債務の問題など、数々の困難を経験してきました。アフリカ諸国は、これらの困難を、各国の自助努力と国際社会からの支援により、一つ一つ克服し、現在に至りました。そして、2008 年央からのリーマンショックに始まる世界的な経済・金融危機による影響を蒙るまでの 2000 年代には、サブサハラ・アフリカを含めたアフリカは経済成長著しい大陸となりました。AfDB は、アフリカ諸国自身の手による開発と経済発展を目指して、1964 年に設立されました。その後、AfDB グループが、この半世紀におよぶアフリカの開発と成長に寄与してきたことを賞賛いたします。

今般の危機を経て、世界経済の構造変化が進んでいく中で、アフリカは単に開発援

助の対象ではなく、今後の世界経済の潜在的な牽引役として、世界の他地域とともに成長に向けて協力していくパートナーと考えます。アフリカ「第一の機関（premier institution）」を目指す AfDB グループには、アフリカの人々に雇用と所得を生み出し、貧困削減と成長を助け、いずれアフリカがアジアに続く「世界の成長センター」として世界経済の支えとなる時代が訪れるよう、アフリカの開発支援をこれまで以上に強力に進めていくことを期待します。世界経済の構造変化が進む際には、途上国の経済発展のあり方やそのための開発課題にも変化が予想されます。AfDB がこのような変化を的確に分析し、今後のアフリカ支援のあり方に反映させていくべく、不断の研究と政策アドバイスをやっていくことを慫慂します。

我が国が当総会において累次にわたり強調してきたように、持続的な経済成長を目指す上では、民間セクターの育成と振興が鍵であります。このような考え方の下、我が国は 2005 年、AfDB とともに EPSA イニシアティブを立ち上げ、日本の譲許的資金によりアフリカにおける民間セクター育成や投資環境整備に資する支援を行ってまいりました。同イニシアティブの下、ソブリン向け融資で 9 件（約 421 億円）、ノンソブリン向け融資（436 億円）、技術支援基金（FAPA）による支援で 33 件（28 百万ドル）の実績が上がっており、これらを通じて AfDB において民間セクター業務が着実に根付いてきております。一般増資後の政策フォーカスの一つが引き続き民間セクターの発展に置かれていることを歓迎します。

また、地域をカバーする広域インフラの整備や、域内の貿易・投資を促進する観点から、輸送、通関、および事業立ち上げ等のコストを低減させるための、国境横断型の支援も、域内の成長を促す上で重要であり、地域開発金融機関である AfDB が先頭に立って取り組んでいくことを期待します。

3. 貧困削減の加速

我々は、経済・金融危機からの回復の道半ばにあります。特に、金融面で危機により細っていた民間資金の流れが回復しつつある一方で、実態経済への影響、特に貧困層への深刻な影響は続いております。世銀の Global Monitoring Report 2010 によれば、サブサハラ地域では、危機前の食糧・燃料価格高騰および今般の経済・金融危機の影響により、貧困人口の減少速度が顕著に鈍り、2015 年に予想される貧困人口は危機が無かった場合と比較して 20 百万人も増加すると見込まれています。

危機の発生により MDGs 達成がより困難となっている中、マルチおよびバイのドナーは MDGs 最後の 5 年間に貧困削減の努力を集中していかなければなりません。サブサハラ・アフリカにおける状況が MDGs の達成を左右すると言っても過言ではありません。低所得国を支援対象とする AfDF は勿論のこと、AfDB も、その強化された資本基盤をもとに、対象国内の貧困層に直接届き貧困削減の成果に迅速に結びつくような支援に、積極的に取り組むべきと考えます。

また、今回の危機において、多くの国で貧困層のための財政の **core spending** が大きく削減されざるを得なかったとの経験を教訓として、低所得国や貧困層を抱える中所得国は、将来に備えて危機耐性のある財政管理制度を築くことが重要であり、AfDB グループが他ドナーとともに適切な政策アドバイスを行うことを期待します。

4. 気候変動対策

気候変動対策は、全ての国々、国際機関が一致協力して対処すべき、喫緊のグローバルな課題です。これに必要とされる膨大な資金需要に対応するため、AfDB グループにおいても、自己資金による加盟国支援に加え、民間資金を動員する触媒機能も果たしていただきたいと思います。我が国では本年3月末に国会で成立した法改正により、JBIC が地球環境保全のための業務を幅広く行えるようになりました。JBIC のこのような新しい機能をフル活用することで、我が国は AfDB グループとも協調しながら、我が国が蓄積してきた先進的なエネルギー技術等も活かしつつ、アフリカの緩和および適応対策に一層貢献していきたいと考えます。

5. AfDB 第6次一般増資および AfDF 第12次増資

今般の危機で、AfDB グループは、アフリカ諸国への支援を迅速に差し延べ、危機の影響を軽減することに大きな成果を上げました。我が国は、その役割を高く評価するとともに、AfDB グループが十分な資本基盤を有し、アフリカの “premier institution” として開発、成長と貧困削減への貢献を一層強化することを支持します。その立場から、我が国は第2位の域外出資国として、第6次一般増資が総務会により決議されたことを歓迎します。一般増資を成功に導いたカベルカ総裁のリーダーシップ及び関係スタッフの努力を高く評価いたします。

特に、増資とともに、AfDB の有効性、効率性の向上のため、リスク管理能力の強化、離職率の抑制等を目指す人事政策の改善、成果評価の枠組み構築、情報公開の強化など重要な改革の実施が、行程表とともにコミットされたことは大きな前進であります。AfDB マネージメントは、これら改革アジェンダを着実に実行するとともに、透明性を高め、出資国への説明責任を果たしていただきたいと思います。

先ほど述べたように、MDGs の達成がより困難の度を増している中、サブサハラの低所得国を支援する AfDF の役割はこれまでに無く重要となっています。この点で、一般増資の議論の中で AfDB から AfDF への純益移転を明確にルール化したことは、重要な成果であります。我が国は、AfDF 第12次増資が成功裡に合意できるよう、建設的に交渉に参加していきたいと考えます。

6. 我が国とアフリカおよび AfDB グループの協力

今月初めタンザニアにおいて開催された第 2 回 TICADIV 閣僚級フォローアップ会合では、TICADIV「横浜行動計画」の実施 2 年目の進捗状況が顕著であったとのアフリカ諸国の評価を得ており、我が国は引き続き、TICADIV で表明した支援のプレッジを確実に実行することにコミットしております。

我が国政府および JBIC、JICA は、気候変動対策の分野や、TICADIV 横浜行動計画の実行において、AfDB グループとの連携をさらに深めていきたいと考えます。カベルカ総裁のリーダーシップにより、AfDB グループが域外国事務所の設置を具体的に検討されていることを歓迎します。アフリカとの地理的な距離を克服し、我が国が AfDB グループとの情報共有や協働を効果的に進めていくため、我が国は近い将来にアジア地域における事務所が東京に開設されることを強く望みます。

また、日本の人材による AfDB グループへの貢献の強化についても、マネージメントとの協議・協力を継続していきたいと考えます。

7. 結語

今般の第 6 次 GCI の合意により、AfDB の資本基盤は 3 倍に拡大することになりますが、これと並んで重要なことは、AfDB が保有する資本をより一層効率的、効果的に活用できる機関へと強化されることであり、それが改革アジェンダの究極的な目的です。AfDB グループには、アフリカを巡る経済・金融環境の変化を的確に分析し、域内国の開発・成長と貧困削減のために最良の支援を形成し、開発効果の高いプロジェクトを適時かつ迅速に組成・実施できる機関として、たゆまぬ努力と絶えざる発展を期待します。我が国はそのような AfDB グループに対し、協力と貢献を惜しみません。

ご清聴ありがとうございました。

(以 上)